

徳島県総合計画審議会 会議録（案）

日時 平成18年11月1日（水） 14:00～16:00

会場 県庁10階 大会議室

出席者

【委員】40名中 20名出席

今田恵津子委員，喜多順三委員，金貞均委員，黒田忠良委員，後藤修三委員，
近藤光男委員，近藤安子委員，敷島のり子委員，重清佳之委員，曾良寛武委員，
中央子委員，野口優子委員，坂東忠之委員，広野みゆき委員，本田圭一委員，
松崎美穂子委員，三谷昭夫委員，三牧千鶴子委員，藪田ひとみ委員，
山田真裕委員

【 県 】知事，企画総務部長，各部局次長，総合政策局長 ほか

会議次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 長期ビジョンについて
 - (2) その他

《配付資料》

- 資料 「2025年頃の将来像への提言」
資料 「現行動計画 基本目標の成果と今後の方向（案）」
資料 「9月7日開催 徳島県総合計画審議会会議録（案）」
参考資料 「目指す姿の検討のためのメモ」

議事録

- 1 開会
- 2 あいさつ 飯泉知事からあいさつ
- 3 議題
 - (1) 長期ビジョンについて
 - (2) その他
- 4 意見交換

(近藤会長)

それでは、長期ビジョン等につきまして、皆さんからご意見・ご提言をいただきたいと思いますが、今年の審議会も今まで皆さんからいろんなご意見をいただきました。ちょうど年度の間も過ぎまして、少しまとめの方向に持っていきたいと考えてます。

まずは、先ほど説明がありました資料1、これは前回の審議会でもいただいたご意見、それから「リレーフォーラム」「しゃべり場とくしま」におけるいろんなご提言をまとめていただいています。これについて、これに追加するような事柄がありましたらご提言をお願いしたいと考えています。

それが終わったところで、私の方から少しまとめの話をさせていただき、資料1に関する「2025年頃の将来像への提言」を1回閉じさせていただきます。

続いてその後で先ほど説明がありました参考資料1、これはいろんな項目の総括的な意味合いでの徳島県が将来目指す姿について、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

それでは、資料1には全部で11項目の大きな枠組みがあり、それぞれキーワード的に、皆さんからいただいた提言が簡潔に書かれています。これについて、今から項目ごとに見ていき、追加や補足すべきことがありましたらご発言をお願いしたいと思います。

それでは、1項目目の「子育て社会」について、他に追加すべきことがございましたらお願いしたいと思います。

(委員)

子育てを考える上で、その支援者の人材養成ということはありませんが、その前に、父母の教育が必要ではないかと思えます。親として十分な資格を持ち、人間として十分に成長した親になっているのか。人は死ぬまで学び成長しないとけない存在ですが、親になった以上は、自分の子どももちゃんとした人に育てる義務と責任を持っています。

しかし、今親になっている人は、どのくらい親の資格や素養を持って育てているのか。どんなに社会のシステムを良くしても、家庭のことを棚上げにしては、根本的な問題解決にはならないわけです。本当に必要なのは親の教育であって、より組織的に体系的に教育できるシステムを作り、しかも参加できるような雰囲気や条件、教育プログラムづくりが必要ではないかと思えます。

核家族化が進み、若い父母には、親とはこういうものだというモデルが近くにいません。自分なりに理想的な親像を作り上げながら、親も子ども一緒に成長していくのですが。一方、子どもは全ての状況を身に受けて成長していくわけですから、一番本質的な問題として、親の教育をして、そこで自分自身の状況や問題をしっかりと認識し、成長できるような手助けをするべきではと考えます。そのことを是非、この「子育て社会」の大きな項目の中に入れる必要があると思えます。

(委員)

提案事例で「子育て支援者の人材養成と資質の向上」とあります。県教育委員会では早くから指導者養成講座を熱心に開設してくださっています。そこでの反省点や意見として出るのは、養成講座を修了しても活動の場がなく、地域に帰れない。地域にそういう修了した人達がいることが分かりづらいということがあるので、資質の向上はもちろん、その

前に人材養成と活動の場の提供が必要であると感じております。

ところで、その下の「イベントによる出会いの場の提供」というのは、これは多分、男女の出会いの場ですね。子育てのところに入ると、子ども同士とか保護者同士のという誤解を受けるので、男女か何かの言葉を入れた方がいいかと思います。

それから、「子育てに関する人生観を養う学校教育」とありますが、次世代育成、これから結婚をして子育てをする人達、中学生、高校生はもちろん大学生もですが、赤ちゃんが可愛い、子育てが楽しいと思える機会を作るため、提案事例の中に次世代育成に関する文言が必要でないかと思います。

さらに、3ページの「(8)新たな公共・協働」についてです。提案事例のところ、「行政支援や連携によるNPO活動の拡充」とあります。私達NPOは、本当に経済的な基盤が全くなくて、やる気だけで頑張っていますが、私どもが活動始めてから16年間、委員会や少子化対応県民会議の場で望んでまいりました県立の子育て支援総合センターができました。今回、男女共同参画交流センター「フレアとくしま」の中にできるということで、大変喜んでおります。しかし、子育て総合支援センター「みらい」での事業は、私達NPOが関われないという現状の中で、私達が16年間ボランティアで一生懸命してきたことと、ほとんど同じです。私達が16年間言い続けてきてやっとできた楽しみはあるけれども、NPOの事業を県が仕切るのではなくて、協働するにはNPOを育てるという意味で、十分検討いただきたいと思っております。

(近藤会長)

ありがとうございました。それでは、2番目の「新しい高齢者観」について、高齢化を背景とした社会について補足等ございましたらお願いします。

(委員)

「元気な高齢者」ですが、徳島県は確かに元気な高齢者の方が多いということも確かですが、これが逆に強調されすぎると、実際に病気の方とか虚弱な方、例えば、寝たきりになっている高齢者の方と、様々な高齢者の方との格差がすごく開いてしまう気がします。もちろん新しい高齢者観も結構ですが、健康状態がすぐれない状況にある高齢者の方などの受け皿、施策というものも両面必要ではないかと考えます。

(委員)

提案事例の「高齢者のICT活用」では、活用する前に高齢者の方にICTの技術習得を指導してあげる場を設定するという事、後の「高齢者の雇用支援」では、雇用できる場の確保にも務めていかないと、雇用を支援してもいざ働ける場所がないと困るので、ICTを学ぶ場と雇用できる場の確保というのも含めて考えていただきたいと思っております。

(近藤会長)

ありがとうございます。おそらくご意見をいただいた時は、そういうものも入っていたかと思いますが、整理の時には、今のご意見を反映させていただきたいと思っております。

それでは、次ぎに3番目の項目「障害者の自立」について、いかがでしょうか。

(委員)

提案事例には、「発達障害児の受け入れ環境の整備」と大まかな将来展望が書かれていますが、障害児の施策に関しまして、今まで障害児の施設の利用料金は、施設に直接100%入っていました。10月からは保護者の方にいったん費用が入り、保護者の方から入金することになりました。このため、1割ぐらい保護者の方の金銭的な負担がある関係上、自宅で保育をされている方がいらっしゃいます。

今、いじめだとか虐待の報道がされているわけですが、そういう障害児童についても家庭内での虐待が増えていると伺いました。そういう子ども達を抱えておられますと、子どもを保育するために親は自宅にこもり、そのことが原因で虐待につながるような気がします。施設がいくら充実しても、金銭的な問題もあります。健常者も障害者も全て同じ一人の人間として扱っていただきたいのですが、障害のある子ども達は、自宅に閉じこもりがちで表に出ないと思うのです。

最近テレビで見たことですが、喉に障害がある保育園児の問題が出ていました。徳島ではいったいどうなのか教えてほしいと思いますが、私の近くにも、そういう子どもを抱えて一生懸命されているお母さん方もたくさんいます。ですから、障害児も健常児も同じ教育と一緒に学ぶことによって、健常児は自分とは違う障害を持っている子ども達もいるんだと、優しい心の育成にもなると思います。ですから、幼稚園にしても小学校、中学校、高校にしても障害を持った子ども達と一緒に学習できる教育の場を提供していただきたいと思っています。

(委員)

「障害者の自立」については、本当に苦しい立場に置かれている方が非常に多く、施設利用料の1割負担とかで大変難しい状況になっていますが、この提案事例の中に、「障害者施策の充実と負担の軽減」とあります。これは提案としてあったんでしょうが、そう簡単に小項目として出せるようなものではなく、取り組む方向として考えていけないといけない大項目でないかと考えます。是非とも「障害者施策の充実と負担の軽減」という部分は取り組み方向として位置づけをしていただきたいと思っています。

(近藤会長)

ありがとうございました。

それでは次の4番目の「教育の再生」について、いかがでしょうか。

(委員)

教育関係について、ここに出ております「きめ細かな指導の充実」ということを考えましたら、もう少し現場の状況を見ていただき、本当にきめ細かな指導をするためにはどうすればいいのか、もう少しきめ細かな方針が欲しいというのが私達の願いです。

今、教育はとても注目を浴び、一体学校は何しているんだというふうに言われていますが、現場の者は本当に毎日必死になって子ども達の指導にあたっております。

実は、1週間ぐらい前、ある子どもが私の所へ連れてこられました。子どもといろいろ

話をして、「毎日、休み時間に1日に1回は顔を見せて欲しい」と言うと、毎日校長室へ1回でいいというのに2回も3回も来るんです。いろいろの話をしていく中で、厳しかった子どもの表情がどんどん良くなってきているんです。いろいろな話をしているうちに、子どもが「担任と一緒に遊んで欲しいんだけど、先生は僕たちの日記を見たり、点を付けたりと、とても忙しそう。なかなか一緒に遊ぼうと言いつらいんだ。」と言うんです。「担任の先生にも、ちょっとお願いしてみたらどうだろう。」と言ったら、子どもが今日走ってきて、「今日の業間は担任の先生とドッチボールをするんだ。」と喜んでおりました。ちょっとした大人のきめ細かな関わりで、子ども達の表情がとても柔らかくなり、クラス全体が本当に落ち着いてきます。担任の先生は一生懸命しているけれども、なかなかゆとりがないのですが、我々の側がきめ細かな対応をしていけば、本当に課題のある子達も真剣に勉強をし、学力も上げ、また周りの者、友達にも大変優しく接することができる。いじめということも、やはり学校全体にみなぎる多忙感というものが、その一因である気がしてなりません。そういった面で、これからの20年後を目指して徳島県独自の方向も考えていただけたらありがたいと思っております。

もう1点ですが、学校教諭を年代別にすると、学校現場は大変年齢が高いです。全体が2,362人のうち、卒業したすぐの22歳から32歳の10年間の教員は205名と、全体のたった8.7%しかありません。一番多い年代が40歳から50歳の間で54.2%です。今から20年後はその人達が全部退職する歳です。そうすると必要な人数の教員をこれからも採用していくのですが、指導すべきベテランの先生方がとても少ない中で、若い人がどんどん増えていけば、年齢構成が大変歪になってきます。そういうことに対して長い見通しを持って、様々な工夫をして、採用の枠を広げていただきたいと思います。子ども達は若い先生、一緒に遊んでくれる先生、意欲や情熱を持って語りかけてくれる先生をとっても願っています。もちろん、ベテランの先生も情熱を持っているわけですが、そうしたことも、これからの施策の方向の中に入れていただきたいと思います。

(委員)

「子育て社会」の展望を描く上で、親の教育をまず基本にとの話をしましたが、「教育の再生」も同じだと思っております。子どもは親と教師を選ぶことはできない。つまり、どういう親から生まれたか、どういう教師に巡り会ったかによって、その子の将来がかかっているわけです。教育の再生という話をする時には、教育環境とか子どもをどういう方向性を持って育てるのかという方針がありますが、誰がその再生をリードしていくかを考えますと、教師なわけです。

ここでは、親とか教師が既に完成型であるという前提の中で、これからどうしようかと議論がされています。でも本質的には親も教師も、もっと教育を受け人間的に成長していかないといけない。教師や親の資質向上という本質的なことを考えずに、根本的な再生を図ることはできないのではないかと思います。だから、教師の資質向上のために、どういう取り組みができるかに、将来がかかっている気がします。だから、その辺のことを具体的に考える必要があるのではないかと思います。

(近藤会長)

ありがとうございました。

「安全・安心社会」という項目につきまして、いかがでしょうか。

(委員)

「安全・安心社会」の取り組み方向として、「地域コミュニティを活用した安全・安心づくり」という項目が挙げられています。下の提案事項を見ると、具体的に地域コミュニティを活用した安全・安心づくりに関連する提案事例はほとんど見られない。「趣味を中心とした地域コミュニティ」とか、「コミュニティリーダーの育成」とか、幾つかコミュニティという言葉が見受けられます。コミュニティというのは、地域社会、人と地域空間が一体となったものと一般に言われています。その目指すべき地域コミュニティ像が全然ない中で、コミュニティを活用するとしても、当然、具体的な施策展開というのは非常に難しいんだろうと思います。

前回の審議会でも申し上げましたが、目指すべき地域社会、あるいは地域コミュニティのあり方とは何かを20年後を見据えた上で考え、その中で安全・安心づくりとはなにかとか、「地域づくり」におけるコミュニティの役割像とかを考えていかないと、具体的な施策展開はできないと思います。そうした観点から、どの項目に挙げるのがいいのか分かりませんが、20年後を見据えた地域社会のあり方、地域コミュニティのあり方をきっちり施策に位置づけた上で、ビジョンと、それに向かっていくアプローチを位置づけられることが必要なのではないかと考えています。

(委員)

南海地震とか災害についての県民の意見がどうしてこれだけ少なかったのかと、ちょっとがっかりする思いがあります。確かに私もNPO活動の中で、家具転倒防止の事業を具体的に官と共同で始めているところですが、非常に意識が低いというか、のんびり屋さんというか、実感を持って災害に対する備えを考えてない方がまだまだ多いというのが実感です。また、様々なアンケート結果からも、このような傾向が出てきております。

ここの項目が少ないのは、取り組み方向について非常に抽象的で、内容を掴みにくい表現になっているので、やはり公共建築の耐震化住宅の耐震化、それから家具転倒防止等のやはり減災の考え方等も含めて、行政として施策に位置づけていただきたいと考えております。

(近藤会長)

ありがとうございました。

「地域づくり・まちづくり」について、ありましたらお願いします。

(委員)

2025年、既にその時には道州制がスタートして徳島県はないかもしれませんが、徳島県というエリアでの人口を、どのくらいと予測されているのかを、まず教えていただきたい。

それと、提案事項の中にあります「移住者の拡大」の中に、最近、県もホームページで、

都会に住む方に向けて徳島県の情報発信されていますが、積極的に退職者の受け入れを考えられた方がいいと思います。

それから、「公共交通機関で移動できる街」ということですが、これから公共交通機関が必要になってくる体の弱い人も増えてくるでしょうし、あるいは化石燃料の高騰によってそんなにマイカーで走り回ることができない時代になることも考えられます。その時まで公共交通機関がなくなってしまうのは困るわけで、やはり維持をしていくことも何か考えていかなければならないと思います。やはり、将来的に公共交通機関は、大量輸送はレールに頼ることになってくると思います。そのために、徳島に路面電車はまず無理な話でしょうから、そうするとコミュニティバスを上手く走らせることになってくると思います。しかし、そのバスを走らせる会社・企業がない状況になると辛いところもありますので、公共交通機関の維持というのを考えられた方がいいと思います。

今、徳島県は「ノーカーデー」という、バスに乗ればシールをもらえて、応募すれば賞品あたるというキャンペーンをされていますが、皮肉なことに、そのラッキーデーの日に関しては、ガソリンスタンドはリッター当たり5円引きというのをやっています。その日に車に乗っていかないとガソリンが安く買えないので車で行こうということにもなってしまいますので、やはりいろんな所のバランスを考えてやられた方がいいと思います。

(近藤会長)

ありがとうございました。2025年の人口についてのお答えはどうでしょうか。

(事務局)

2000年国勢調査を基にした国立社会保障・人口問題研究所の中位推計によると、本県の約81万人の人口は、2025年には72万人という推計が出ております。

(委員)

取り組み方向の中に「マンションやコンビニを核としたコンパクトシティー化」という具体的な話が1つ入っていますが、取り組み方向というにはあまりに具体的すぎるので、提案事項に入れられたらいかがでしょうか。

(近藤会長)

よく言われているコンパクトシティーは、マンション・コンビニを核としたというのとちょっと違うイメージがしますので、もうちょっと詳しく書いていただくとともに、どちらかというと提案事例の方がいいような気がします。

それから、人口のお話しは、非常に大事なことだと思います。安全・安心で住みやすい町を作るということで、社会基盤整備を考えていく時は、人口は重要です。ここでの提言は、その中でどうしのいでいくのか、乗り越えていくのかみたいなことがたくさんありますので、今後、具体的なことを示していきたいと思います。

(委員)

地域づくり・まちづくりの主体は、地域に住んでいる人、まちに住んでいる人です。そ

ういう人達が、自分達の地域をどうするかを主体的に考えていくことはとても大事で、その中で例えば、そのためには地域の人達が、自分達の地域の魅力に気付く必要があります。それに気付いた上で個性化、差別化した地域づくりができてくるので、取り組むべき方向の中で、地域の人、まちの人が入ってないのかとても不思議です。市民参加、住民参加のまちづくりがきっちり位置づけられないと、まちづくり・地域づくりというのは進んでいかなと思いますので、「市民の主体化あるいは市民参加」というのを、取り組むべき方向に位置づけていただければと思います。

（委員）

取り組み方向の「外国人が過ごしやすいまちづくり」や「外国人が働きやすいまちづくり」ですが、それを踏まえた提案事例の中で、どれが反映しているのかが、なかなか見つかりにくい気がいたしました。「他の地域や海外と情報を直結」するだけでは直接過ごしやすいまちづくりや、働きやすいまちづくりにはつながりにくいと思いました。

いろんな所で過ごしやすいように各国のいろんな看板を設置したり、「教育の再生」でも「国際的な視野を持つ人材の育成」という取り組み方向がありますが、具体的な提案事例がないので、例えば、外国人の方が徳島県に来た場合に、肌の色を問わずいろんな国の人を先生として迎え国際理解の勉強に取り入れたいとかも考えていただきたいと思います。

（事務局）

資料1の「提案事例」と「取り組み方向」というのは、直接関連づけているわけではなく、それぞれご発言があった内容で、それがより具体的なものであれば「提案事例」に、それがもう少し抽象的、あるいは大きな方向性のご発言であれば、「取り組み方向」にまとめさせていただいていますので、そのようにご覧いただけたらと思います。

（近藤会長）

これから計画案を作っていく時には、その辺の対応も含めて検討しないといけないと思いますので、ご理解をお願いしたいと思います。

それでは7番の「地域経済の振興」についてですが、私もりレーフォーラムに3回出たんですが、地域経済の振興については、結構意見が出た気がします。これから国際的な競争も激しくなりますので、徳島県の特徴を活かして、経済の振興をしないといけないという意見も出ていました。

それでは順次進めさせていただきます。8番の「新たな公共・協働」ですが、いかがでしょう。地域活動、地域政策のいろんな取り組みを展開する時の方法論的な話になると思いますが、今までの項目と並列でなくて、横断的な項目のような気がしますので、そういうことを考えてまとめをお願いしたいと思います。

それから9番の「環境首都とくしまづくり」ですが、いかがでしょうか。

（委員）

1つは不法投棄やごみの問題です。上八万のしらさぎ台の周辺に、香川の豊島のごみを上回るかもしれない大量のごみが埋まっているのではないかという話が、市民の方からあ

りました。実際に市民の方が掘ってみると、県が許可した筈のないごみが随分埋まっていたそうです。その大量のごみの横には園瀬川があり、その川の伏流水を上水として飲み水に使っている方々もたくさんいます。2025年の先の明るい夢を語るのは非常に大事なことです。今、埋まっているごみが25年先、30年先に、私達に健康その他に及ぼす影響も考えないといけないと思います。これから取締りをするということも大事ですが、取り締まる網をくぐって、既に大量のごみが埋まっている場所は、県下あちこちにもあると思います。県の方で慎重に調査をして、害があるということになれば早急に適応しないと、しだいにその害が増えていくと考えられます。地下水は一度汚染されると、汚染源を取り除いても1千年間は浄化されないと聞いたことがあります。ですので、是非ともこれからの取締りでなくて、これまでの部分についても、この先被害が出るということ的前提に厳しい調査・検査などをお願いしたいと思います。

もう1点、「貴重な動植物の保護」についてですが、マリンピア沖洲の第二期工事においてルイスハンミョウなどを保護する人工海浜を造成中ですが、その南側に水域が残っています。県の計画ですと、その水域は防火用水的にただ水が溜まってるだけですが、これだと生物は棲みにくく、特に干潟の生物はもう棲めなくなってしまいます。ですから、是非ともその南側の水域だけでも、干潟を造成して復元していただけるようお願いいたします。現在そこには、ルイスハンミョウだけではなく、貝に限っても二十数種類の絶滅危険種や絶滅危惧種がいます。またその貝の棲んでいる密度が、周辺の干潟よりも21倍も高い生物量を誇っています。そのことが私達にどういう関係があるかと言いますと、新町川辺りの汚染された水が、そういう貝や微生物によって浄化されて海に流れ、私達はその海に棲んでいる魚を食べているわけです。現在ある2,100mの海岸のうち、ほとんどが今回の第二期工事で干潟がなくなり、300mだけは新たに造成しますが、それは7分の1しかないわけです。ですから、南側水域に干潟の生物が棲めて、水質浄化ができるよう是非とも推進していただきたい。20年先には子ども達がそこで生物観察なんかもできるような、都市に近い所にそういう場所があるのは、県外の方も非常に羨ましがっています。沖洲の生徒さんもそこで100人ぐらい毎年のように、裸足で泥遊びや砂遊び、観察会などをやっています。そういった貴重な場所ですので、是非とも廃棄物の話とマリンピア沖洲第二期の南側水域の干潟復元ということをお願いしたいと思います。

(近藤委員)

ありがとうございました。それでは10番の「文化・スポーツの振興」について、どうでしょうか。

(委員)

質問ですが、「阿波踊りの支援」は、どの項目に入るのでしょうか。

(事務局)

提言を受けた中では、特に阿波踊りが具体的に挙がってこなかったのですが、この中では、「文化」に入るかもしれません。

(委員)

阿波踊りは健康にいいとか、いろんないいところが出ています。渦潮と剣山のように阿波踊りは県外から呼べるいい目玉だと思いますが、大きな2種類か3種類の団体に所属をしていないと非常に肩身の狭い思いをすることがあり、実は去年、今年と徳島青年会議所では、幸町にLEDの無料機敷を作りましたが、非常に好評でした。ですが、私が小さい頃の阿波踊りの人口よりも、今は減っているように感じています。これから10年後、また2025年に阿波踊りをどう発展させるかということですが、1つはまず、阿波踊りの連ついで資料というものがなく、幸町に来ていただく連を大変な思いをして調べました。例えば、10人で今年初めて作った連というのがありました。県で連についての資料の作成や踊れる場所の案内などの支援をお願いしたいと思います。

私が小さい時は小学校、中学校で体育の授業で阿波踊りを習っていました。10人で今年始めた小さい連も、もしかすると2025年には100人、300人の連になっているかも分かりませんので、小さいところからの底上げにご支援いただけたらと思います。

(委員)

今回の将来像の提言に、全体的に健康の概念がないという気がします。2025年頃の将来像は、ある意味目指す徳島の姿であり主体は県民です。だから、県民全体が健康でないといけない。世界的にウェルビン(ウエルビーイング:「wellbeing」=「健康な人生を生きる」「幸せ 福祉 福利」ということに非常に関心が高く、よりよく生きるということに関心を持たれています。そのためにどう食べるか、どう生きるか、小さいことから何事にまでウェルビンの考え方に基づき、生きることを見直すわけですが、徳島は人口10万人当たりの糖尿病死亡率が日本で第一位の県です。その背景を深く究明しなくてはなりませんが、まずは健康的な部分をしっかりと考えていただきたい。将来像は、ある意味キャッチフレーズみたいなもので、目指すところをみんなにアピールするものです。ここに文字として挙がってくることがアピール材料になるので、そういった意味で健康という概念が抜けている気がしました。それをどこに入れるかは分かりませんが、例えば「文化と健康・スポーツ」でしょうか。こういう形で是非、健康概念を入れていただきたいと思います。

(委員)

先月の10月13日から3日間「日本文化デザイン会議」が開催されまして、私も参加させていただきました。四国でも初めてのイベントということであり、徳島にとっては大変画期的なことではなかったかと思います。

それで、日本文化デザイン会議を通じて感じたことがありまして、日本文化デザインフォーラムに携わっている130人ぐらいの中で、40代から50代にかけての人がほとんどですが、その中でも、小学校の頃に見た大阪万博の岡本太郎さんの「太陽の塔」を見て、それに衝撃を受けて今の自分があるという方が何人かいました。小学校時代にイベントに参加し、そういった斬新な物を目にすることが、いかにその人の人生を左右するかをつくづく感じたわけです。今回の日本文化デザイン会議で、千住明さんが作曲し、サエキけんぞうさんが作詞をした「タネの奥に花」という歌を小学生79名が合唱しているのを聞きまして、ある方も感動して涙されておられなど、本当に良かったと感動いたしました。

徳島には、あまり文化というのが根づいていなくて認識も低いと思うのですが、20年後の徳島の文化の形を想像した時に、文化は豊かな心を形成しますし、ゆとりのある生活にも役立っていくと思いますので、今の幼稚園児・小学生にどんどん文化イベントに参加してもらって、将来の徳島の文化を創造してもらいたいと思いますし、そういう環境を作っていけたらと思います。

(委員)

建築士会のまち並み研究会が日本文化デザイン会議で「地域文化賞」をいただきました。これは、徳島が民家や農村舞台とか伝統的な建造物の豊かな所であり、私の所属する研究会の先輩達の活動が今の農村舞台の復活公演につながっていることで今回の賞をいただくことになりました。農村舞台の方は、各地に保存会のようなものができて本来の姿を取り戻しつつありますが、残念ながらここに挙がっている「古民家」は、もう何らかの手を差しのべない限り、余程の重要文化財に指定されない限り、ほとんど絶滅危惧という状況にあります。祖谷地方の民家を見たいと思っても、四国村に行かないと3棟並んでいる祖谷の民家が見られない状況にあります。せっかく民家の宝庫と呼ばれている徳島で、農村舞台が復活したような形で民家を活かす正しい保存方法は現地でそのまま使われるということです。それは「地域づくり」のところの「空き家の利用」とかいろんなことが考えられますので、記憶の器としての民家の保存継承、更には活用することを具体的に検討していただければと思います。

(委員)

文化面で最近ショックなことに、とうとう徳島ホールも閉館となってしまい、県庁所在地の中で映画館がゼロというのは全国で数えるほどしかないと思います。今のままでは経営が成り立たず、存続することが難しいのかもしれませんが、来年5月には「眉山」も上映されます。車のない方がバスで見に行こうと思っても、映画館まで行くバスの数は1日に4、5本しかなくて、自転車で行くには徳島市内からはちょっと大変です。映画はビデオで借りればいいという話もあるかもしれませんが、映画館が県庁所在地に全然ないというのはどうかなと思います。

また、来年は「国民文化祭」が開催されます。今回の「日本文化デザイン会議」では、日本デザイン会議というネーミングからして、一般の方が参加してもいいのだろうか、当日行ってもいいのだろうかということで、なかなか参加しにくかった部分があったかと思っています。「国民文化祭」では、小さな子どもも参加して、それに影響受けて将来文化人を目指したいと思ってもらえるよう、PRをしっかりと行い、県民の人全員が参加して楽しんでもらえるようにしたいと思っています。

(近藤会長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。文化については幅広い問題でもありますし、文化とは何ぞやという話まで広がっていくと思います。

最後に「新しい徳島づくりへの視点」ということで、これは将来像の実現に向けてこれまでの10項目以外に、注意していく視点として、ここに5項目挙げてございます。これ

について何かご意見ございますでしょうか。

(委員)

これは「参考資料1」に関連しますが、GNH(国民総幸福量)は非常に素晴らしい考え方で、これを他の委員会でも言っているのですが、客観的な幸福という概念でなくて、主観的な幸福という概念というのが、おそらくとても大事だと思います。比較することによって幸福を感じるのではなく、自らの満足によって幸福が感じられる。これからの地域づくりは、そういう視点が大事で、例えば、グロスプリフェクチャルハピネスという県民総幸福みたいな考え方で、特に最近数値目標、それを達成度合いで行政の成果を図ることが多いのですが、その時に何も客観的でなくてもいいので、徳島県民は例えば、これだけ「ちくわ」を食べて幸せだとか、そういう独自の幸福感をここ20年間ぐらいでどう作っていくかだと思います。そうすると多分、徳島県人のライフスタイルや食の文化にはこういうものがあるんだという地域のアイデンティティに結びついていくので、幸福感を図る尺度というのを、新しい計画の中で少し検討したら面白いのかなと思っています。抽象的な話ですが、そういった観点も是非、ご検討いただければと思います。

(近藤会長)

ありがとうございます。ただ今の委員のお話は、この後に意見交換をしたいと思っていますので、ここで「資料1」に基づく皆様のご意見を、私の方でまとめさせていただきたいと思います。

(委員)

「地域経済の振興」のバイオマスについてですが、地域振興、経済、徳島の振興にバイオマスを発展させて、環境に負担のかからないような技術をどんどん世界に発信できれば、これは非常に素晴らしい地域振興と経済的にも有効になる話でもあります。幸い徳島には、もう既に世界的に有名になった上勝町もあります。そういうふうにいる考えれば、すごくいい知恵も出てきて、今後は経済的にも有利になっていくと思います。ですので、「地域経済の振興」にも、バイオマスの取り組みを入れていただきたい。2つ入れると具合悪いのであればしょうがないですが、よろしくお願いします。

(近藤会長)

それでは、先ほど申しましたまとめの方向でということで、この「資料1」のところは、新しい行動計画の長期ビジョン編の「将来像実現に向けて」というところに入れるという流れです。これは、一番具体的な方向の土台になるところです。今日皆さんにお示ししました10項目、それから11番目は「新しい徳島づくりへの視点」になっていますが、その10項目について、私なりに項目ごとに少し大きな柱を立てた方がいいと思います。と言いますのは、資料の「取り組みの方向」と「提案事例」は、今までのご提言をそのまま書いたものであり、関連性も不十分で整合性も取れていませんので、これから事務局の宿題になるかと思っています。それをまとめていく過程で、10項目の各項目の中で、ある程度集約した柱を立てて、その中で「取り組みの方向」と「提案事例」をまとめていくと、より

分かりやすいのではないかと思います。今から私なりのまとめを申し上げて、次の資料づくりの参考にするという位置づけにさせていただきたいと思います。

1番目の「子育て社会」につきましては、全部で取り組みの方向が6項目、提案事例7項目あり、それを集約するとかなり大きなくくりになってきます。「社会全体の意識改革」をこれから十分にしていけないといけないということが1番目。それから2番目が、「社会全体で育児に取り組む」必要があるということで、例えば、委員が言われた活動の話もここに入り、親の教育というのは、どちらかという意識改革のほうに入ると思います。それから3番目が、性別・役割分業の是正という、「男女共同参画」と、これぐらいの柱が立てられるのではないかと思います。

2番目の「新しい高齢者観」については、1番目の柱として「高齢者も社会の主役になれる新しい高齢者観の確立」が必要ということで、これについては先ほども委員が、高齢者というのはいつも元気な人ばかりではないということで、広い視野で高齢者を見ていかなければいけないと思います。それから2番目は、健康寿命の延伸、寿命がどんどん延びていくということで、「生涯を通じた早い時期から健康づくり」が一層重要となるということです。委員が「健康は非常に大事ですよ」と言われましたので、それをどこに入れるかは次回までの課題ですが、ここでも少し健康について触れたらいいかなとも思います。中身としては「元気な高齢者づくり」につながっていくと思います。

3番目の「障害者の自立」については、障害はいろいろあると思います。どんな障害に対してもその人自身の意思・ニーズに合わせた態勢を整えて、それに対応していくことが大事だと思います。

4番目の「教育の再生」には、たくさん意見いただいております。1つは「長期的視点で社会全体での教育の推進」、長期的かつ社会全体で教育を考えていけないといけないと思います。それから2つ目が「教育環境における知識や情報の格差の是正」。3つ目が「若者の個性を伸ばす社会システム」。特に若者の教育というのは大きな課題とされていますので、常識をしっかりとった人材の育成、地域に愛着と誇りを持つ人材の育成、それから国際的な視野を持つ人材の育成などが含まれると思います。それから4番目としまして「個人の能力を高める教育」、これも必要でないかと思います。

5番目の「安全・安心社会」については、本日の委員の話にもありましたが、リレーフォーラム等ではあまり意見が挙がってこなかったというのが私の感想です。特に2025年というかなり長期なことを考えましようというスタンスで臨みましたので、どちらかというとアクションプランで充実させていく項目かもしれませんが、まず、安全・安心社会では「各個人の防災意識の向上」が挙げられると思います。それから2つ目で「保健・福祉などのきめ細やかなサービスの提供」。それから「地域コミュニティを活用した安全・安心づくり」。コミュニティにつきましては、ご発言がありましたコミュニティをどうするかということにつきましては、安全・安心社会というよりも、むしろ地域づくり・まちづくりという項目で書き込んだ方がふさわしいと思いますが、それも今後検討させていただきたいと思います。

6番目の「地域づくり・まちづくり」につきましては、「地域に住んでいる人が主体となって地域を作っていく」。つまり、地域の魅力に気が付いて、それを向上させることによって、交流人口を増加させて地域を活性化させる。それから「UターンやIターンを積

極的に受ける地域づくり」をする。それから、高齢化社会を目の前にし「高齢者の暮らしを尺度としたまちづくり」も必要です。それから、これは少しシェイプアップの話ですが、人口が減少する中、今まであった社会基盤施設をどう維持・管理していくを含めて、効率的な機能づくりをして「持続的な地域の発展を図る」必要があるということです。最後に、グローバル化の伸展を考えて「世界のことも意識した地域づくり」、これにつきましては、今日も意見ございましたが、外国人に対して、どう住みやすい地域を作るかということも含まれると思います。

7番目の「地域経済の振興」につきましては、LEDバレイ構想の後の「競争力の高い先端的な地域産業の創造・集積」。それから「地場の生産物の付加価値向上や、異業種融合による新しい地域産業づくり」。少し拡大解釈しますと、先ほど委員からありましたバイオマスもこちらに入れることもできると思います。それから食料基地の話で、長期的視野のもとに「農林水産業の競争力の強化、安全・安心な食料の供給体制」を図っていく。それから「ICT化の推進とその最大限の利活用」。それから、地域経済もグローバル化が伸展しますので、特に「東アジア諸国の交流」を意識して、地域経済を盛り上げていく必要があると思います。

8番目の「新たな公共・協働」ですが、公共といいますが、行政が公共を担うのは以前からありますが、民間が担う公共というのもありますので、「主体的に個人が地域づくりに参加」していく。次に「ボランティア活動やNPO活動が積極的に行政と協働」し、県民と一緒に活動していくということです。それから、企業活動は地域全体からすれば大事な役割を担っており、企業活動も社会全体の公共につながるということで、こちらも「企業の意識の転換」を含めて徳島づくりをしないといけないと思います。

9番目の「環境首都徳島づくり」ですが、これについて1つは「循環型社会の構築や貢献」です。省エネ・省資源、バイオマスエネルギーの先端地域を目指す取り組みなどがあると思います。それから「地球温暖化防止への貢献」で、特に徳島は森林資源が豊かですので、それを通じてCO₂の吸収に貢献するべきではないかと思います。それから「自然環境の保全」ということが挙げられると思います。

10番目の「文化・スポーツの振興」ですが、「地域社会では環境・歴史・文化などが一層重要」になるということです。それから地球環境問題とも関係しますが「エコロジカルライフも文化の1つ」として考えるということ。それから地域のアイデンティティを高めるものとして「固有の文化は大変重要」だのご意見いただきました。そういうことで幅広く「文化の総合力を高めていく」とことが重要と思います。

今、横断的に言いましたので、これを踏まえて次回の委員会の資料としてより深まった議論ができることを期待しています。

次の話ですが、徳島にとって好ましい地域づくり進めていく上で、私たちの価値観とか幸福感に基づき、それを達成するために長期ビジョンを作っているわけですが、将来の価値観とか幸福感というのはどういうことか、それから、それに基づいた地域づくりの総体的なビジョン・方向性ということについて、難しい問いかけですが、ご意見がありましたら、その意見に基づいて、次回までに案を作成していくという流れにしたいと思います。

「参考資料1」を見ていただいて何かございましたらよろしくお願いします。

(委員)

長期ビジョンとしていろんなことが網羅されていて異論はないのですが、総花的であり、全体を引っくるめたキャッチフレーズみたいなものがないという感じがしております。安倍総理の「美しい国日本」はともかくとして、短くて素敵なキャッチフレーズがあれば、それを分かりやすく出して、その中にこうしたいろんな計画を書かれる方が良いかなと思います。

(近藤会長)

ありがとうございます。一言で言うというのはいいことです。是非分かりやすく県民の皆様に向かって、一緒に徳島づくりを進めていこうという視点も大事です。他にどうでしょうか。

(委員)

今でも語られているのは「3000日の徳島戦略」というキャッチフレーズです。あれは終わってしまいましたが、今でも何かのときに、「3000日の戦略にしよう」と言ったりするので、後々受け継がれるようなキャッチフレーズがあるといいなと思いました。

(委員)

教育の問題になりますが、徳島でも、外国人がたくさん住んでおられます。その外国人が気持ち良く徳島で暮らせていくには、やはり言葉の問題です。私が不思議に思うのは、外国人で不思議と短い時間で日本語を上手に喋られています。日本人を逆に考えた場合、中学校、高校と6年間、ほとんど必修で受けるわけですが、6年間勉強しても本を読むのは読めるのですが、実際に聞き取りだとか喋るとなるとなかなか難しいのではないかと思います。将来、県庁・市役所・消防署など公共施設には、必ず外国語の喋れる人を配置する必要があると思っています。そのために、これからの子ども達に喋れる英語を教えたいと教育関係者にお願いいたします。

(委員)

6番目で、東アジア圏を視野に入れてというのは具体的にはどの国でしょうか。具体的に東アジアと掲載された理由には、多分、徳島に滞在している方が、東アジアの方が多いのではないからかと思いますが。

また、英語もいいのですが、これからの介護問題、早かったら来年から日本に東南アジア系の方が介護士として就労します。一部、既に東京都内では、そういう東南アジアの方に日本語を勉強させた上で、何級といった資格を取らせているということがテレビで放映されていました。

20年後は私自身が介護される年になりますが、そういった時に日本語があまりよく理解できないような方が介護士で来られた場合、東南アジア系の言葉も視野に入れ、介護士と被介護者との間で、相手の国の言葉で「おはよう」とか「ありがとう」とかいう言葉を覚えたら、介護する側もされる側にとっても、心の交流ができ介護の質が上がるのではないかと思います。これからは英語だけでなく、東南アジアの言葉も私達は学んでいかな

いといけない状況になるのではないかと思います。

(事務局)

これにつきましても、提言いただいたものを記載してあるのですが、具体的にこの国というのではなくて、中国、韓国、東南アジアの人達との交流を前提にしたまちづくりをしていく必要があるのではとのご意見であったと思います。

(近藤会長)

少し補足しますと、今、中国との貿易や交流がすごく増えています。東アジアというと韓国・中国・台湾・フィリピン・ベトナムとかが入ってくると思いますが、大きくは韓国と中国と台湾が代表的な東アジアと思います。今までは、日本の大都市を通じての外国との交流でしたが、もう地方で直にやっっていく時代になっていますので、徳島もそれに乗り遅れないように、更にその上を行くように頑張ろうと、特に経済面でそういうことが大事だと思います。言葉の問題もおっしゃるとおりだと思います。

後、土台になる幸福感とか価値観というあたりも、皆様のご意見をお聞きしたかったのですが、時間もなくなってきました。少し抽象的ですが、計画づくりの一番の土台は、私たちの価値観に基づいた望ましい地域や社会であり、その望ましいというのは、私たちの価値意識です。そこがどんどん変わっていくと、それを土台にして社会も変わっていくので、将来を考えるというのは難しいところですが、それについてご意見がございましたら、後で電話や電子メールでのご意見をお願いしたいと思います。

それでは、これで今日の一番大事な議論である「将来像への提言」の一応のまとめができましたので、最終的には次回の審議会で、もう1回確認、議論をしていただきたいと思えます。それから、その上に立つ目指すべき将来の姿とはどんなものかについて、また議論を続けていきたいと思えます。今日皆さん方からたくさんご意見・ご提言いただきましたが、長期計画につながるものばかりで、かつアクションプランにも考えていくべきことも随分ありました。長期計画とともに行動計画も作っていくことが目標ですので、反映すべき項目は反映していただきたいと考えています。

5 事務局説明

第2回審議会の会議録については、「資料 会議録(案)」としてとりまとめた。

異議がなければ、徳島県ホームページに關係資料とともに掲載する。

次回の審議会は、2月頃の開催を予定している。

今回の審議会の会議録については、会長と協議の上、公開する。

6 閉会